

看護と文献

CD-ROM検索利用指導

山崎 捷子

1. はじめに

この数年、病院図書室は機械化、電子化の波に翻弄され、担当者は慣れない仕事に頭を抱える日が続いていた。これに追い打ちをかけたのが、1993年4月の製薬会社の文献サービスの自粛である。当院でもそれまでMRに依存していた文献複写依頼が図書室に来るようになり、院外への依頼件数は1993年には1297件、1994年には2147件にものぼった。くる日もくる日も山のような文献依頼に追われ、朝から晩までわき目もふらず、目録とパソコンにかじりつく毎日であった。この超Heavyな環境の中で、担当者は従来の仕事のやり方を見直す必要にかられるようになった。その結果、いくつかの業務の手順を変えたり合理化したが、その一つが当院独自のCD-ROMマニュアルの作成である。これにより、CD-ROM検索は原則として利用者自身で行ってもらおうというものである。本稿ではこのCD-ROMマニュアルの作成課程と効果について、看護婦を中心に述べてみたい。

2. なぜ独自のマニュアルを作成したか

当院では1992年春にMEDLINE(Dialog On-Disc MEDLINE)を、そしてその年の暮には医学中央雑誌CD-ROM版を導入した。導入当初は業者作成のCD-ROMマニュアルを使用していたが、医学中央雑誌CD-ROM版の導入に伴って看護婦の利用が多くなり、その検索指導に追わ

れるようになった。そこで、既成のマニュアルを土台に当院のハード環境や利用者の声に即した独自のマニュアル作成に踏み切った。このマニュアルはすべての利用者に向けて作成したものであるが、医師はすでにセルフサーチをする人が多かったので、特に利用の増加が著しい看護婦が自分で検索できるようにという目的で作成した。

3. 当院の看護部と図書室のサービス

ここで、簡単に当院看護部の規模と看護婦に対する図書室のサービスの概要を紹介しておきたい。

(1) 看護職員の構成

当院看護職員467名の構成は以下の通りである。

正看護婦（パート含む）：373名
 准看護婦（パート含む）：23名
 看護助手（パート含む）：71名
 勤務病棟は15病棟、外来、手術室、健康管理増進センター、訪問看護ステーションである。

(2) 図書室の看護婦へのサービス

当図書室の役割の一つ、「職員の研究、教育を支援する」ために医師と同様看護職員に対しても通常の図書館サービス以外に次のサービスを行っている。

① 新着雑誌のコンテンツサービス

看護関係の新着図書のコンテンツを職員が出退勤の際必ず通るロッカー室の前の掲示板に貼り、最新情報の提供を行う。

やまざき かつこ：淀川キリスト教病院

また、新着雑誌の記事でその病棟に該当する記事があれば病棟の責任者に配付して、各部署の部局図書としてその雑誌を1冊購入するケースも多い。

②見計い本の取次ぎ

見計いを希望する図書があれば、利用者は図書室担当者に連絡し、書店に取り次いでもらう。購入、返却どちらの場合にも図書室が仲介する。

③私用図書の購入取次ぎ

この私用図書の取次サービスの件数は1995年1月～6月で総件数844件、このうち看護職員の見計いは110件であった。

④毎年3月末に新入職員オリエンテーションで図書室の利用について紹介している。

4. 看護職員のCD-ROM検索

看護職員に対する図書室のサービスは上記の通りであるが、検索用CD-ROMを導入して以来、これらのサービスの他に代行検索や、検索利用指導、原報の入手などのサービスが追加された。これらの図書室サービスのうち担当者の省力化が可能なのは利用者自身でもできる検索業務の部分である。

ところで、当院看護部では毎年11月から12月にかけて院内看護研究発表会が行われることになっている。そのため、5月頃から図書室に資料を探しに多くのナースたちがやってくる。ほとんどのナースは一度もCD-ROM検索を行ったことがなく、コンピュータにも触ったことがないという人たちである。そういう人たちを相手に一日に何度も何度も同じ説明を行い、実際の検索に付き添うのは一人の担当者では限界があった。そこで、検索マニュアルを作成しようと思い立ち、1994年5月に初版を作成、1995年3月には改訂版を作成した。

5. CD-ROM検索マニュアル作成過程

(1) 初版マニュアルの要点

① 文章を読んで理解するマニュアルではなく、画面から理解できるものにする。

② 操作の手順・検索手順一つ一つ、キー操作一つづつ、マニュアルに沿って順を追っていけば利用者が自分で検索を行うことができるものにする。

初版作成の要点は上の2点であるが、その後実際にこのマニュアルを利用したスタッフからの指摘でいくつかの問題点があることが判明した。そこで、1995年1月この初版マニュアルに対するアンケート調査を行って利用者の意見を聞くことにした。

(2) 初版マニュアルに対するアンケート結果
アンケート調査の結果を簡単にまとめると以下ようになる。

①マニュアルの良い点

- a. 必要最小限の操作が記入されていて簡潔である。
- b. 実際の画面に即して説明がしてありわかりやすい。

②改善すべき点

- a. 機械操作上のトラブルのにも関する説明が欲しい(例: 当院のハードはIBM系で、キーボードがNEC系のものと異なる、など)
- b. 説明文がわかりにくい箇所があった。(例: 印刷オプションのセレクト、など)

③利用者からの提案

Q & Aを作ったらどうか、作業項目などがわかりやすいように見出しを作ったらどうか、など。

(3) 改訂版マニュアルの要点

- ① マニュアルにキーボードの図を載せ、説明文にでてくるキーボードと、図のキーボードに同じ色のマーカーを塗り、わかりやすくした。
- ② 操作上必要なキーボードを押した時に出てくる画面を載せ、説明文と対比させた。
- ③ 説明文を各ページ真ん中にまとめて、見やすくした。
- ④ 目次を工夫した。
- ⑤ Q & A コーナーを設けた。

6. マニュアル作成の効果

このようなマニュアルを作成し約1年が

経ったが、当初の目的であった担当者の省力化にはかなり効果があった。マニュアルを自分の図書室の環境に合わせて、また利用者の意見を採り入れて作ったことが効を奏して、自分で文献検索するナースが増え、代行検索の件数や検索指導の件数がかなり減った。

また、看護職員のCD-ROM検索利用件数の推移を見てみると、1992年が87件、1993年が62件、1994年が149件とマニュアルを作成した年の件数は前年の2倍以上になっている。これは、自分で検索できることで文献検索に関心が高くなったこと、検索の操作が簡単であると分かったこと、人に依頼する気持ちの負担が減ったことなどによると思われる。

しかし一方、検索数の増加に伴って看護職員から原報入手依頼が増加した。1993年には

122件であった院外への文献依頼件数が1995年1月から9月で、すでに130件になった。当たり前のことであるが、担当者が相互貸借サービスにかける手間は増えている。

7. おわりに

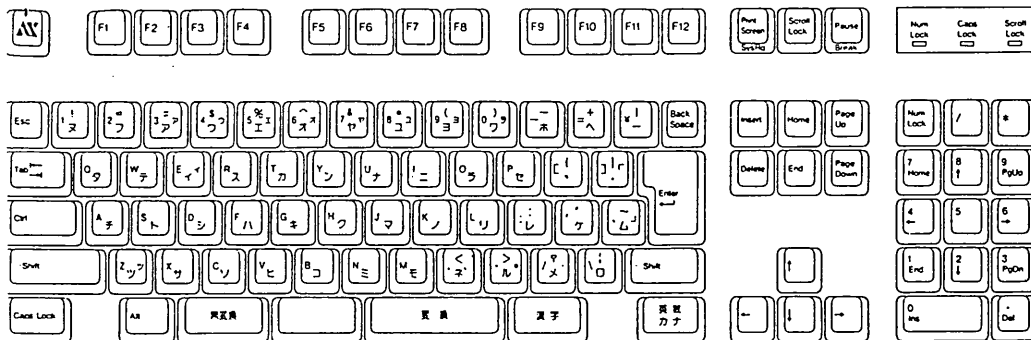
機械化、電子化が進み、利用者自身で情報にアクセスする時代になった。図書室担当者は多様化する情報メディアと利用者をつなぐキーパーソンとしての役割りを果たさなければならなくなるであろう。医学医療やその周辺分野の情報入手に必要なハードやソフトの知識を持ち、また利用者にわかりやすいマニュアルを作成することも大事な仕事であると考えている。今後とも利用者の声に耳を傾け利用者とともに歩んでいきたい。

目次

1. はじめにp.1
2. 目次p.2
3. 端末の説明p.3
4. 端末の立ち上げp.4
5. メニュー検索の方法p.10
6. プリンターへの出力p.17
7. キーワードの掛け合わせp.21
8. 履歴検索の保存p.27
9. 終了p.35
Q & Aコーナーp.37

マニュアル
「CD-ROMの使い方」
の目次

マニュアルの一部



- ② 次にキーボード上部の F 4 キーを押して「印刷」を実行して下さい。
- ③ 印刷の範囲を指定する時は、上・下キーで「全件」もしくは「範囲指定」を選びます。

<p>検索項目 NO 全項目 #000001 93252506 事務職員のための看護学 内科・外科的な健康問題をもつ壮年・ 中年の人びとの看護 小松浩子(聖路加看護大大学院) 保険診療 47巻 2号 Page61-67 (1992.2) 33C 1 看護学,看護</p> <p>#000002 93252493 事務職員のための看護学 社会のなかの看護 黒田裕子(東医歯大) 保険診療 46巻 10号 Page61-67 (1991.10) 33C 1 看護学,看護</p> <p>#000003 93252097 入院児の遊びと看護</p>	<p>印刷指定 全 件 範囲指定 []</p>	<p>キーワード KW シソーラス TH 分類コード CC 著者名 AU 所属機関AA 収録誌名JN 文献番号CN 履歴検索</p> <p>絞り込み</p> <p>チェックタグ CK 副標目 SH 記事区分CI 言語 LN 収録誌年PN 収録誌巻PK</p>
<p>本誌 年RN キーワード KW [カゴ</p>	<p>] 本誌 号RX 抄録有無AB</p>	<p>復帰(PF10)</p>